

佐渡島で越冬したオオカラモズ *Lanius sphenocercus*近藤健一郎<sup>1</sup>

1993年, 新潟県佐渡島において, オオカラモズ *Lanius sphenocercus* 1羽が越冬したので報告する。オオカラモズは, 日本では不定期に渡来するきわめてまれな冬鳥とされており, おもに西日本で記録されている (Brazil 1991)。新潟県では, 1989年2月に中頸城郡頸城村の水田に飛来した成鳥1羽が観察されているだけである (古川ほか 1990)。

## 観察地

オオカラモズが越冬した場所は, 新潟県佐渡郡佐和田町, 金井町, 真野町の境界付近 ( $38^{\circ} 0' N$ ,  $138^{\circ} 21' 30'' E$ ) で, 佐渡島のほぼ中央部に位置し, 国府川と藤津川にはさまれた区域である (図1)。

越冬地周辺の環境は, 広い水田地帯で, 稲刈りとり後の水田が広がるなか一部に休耕地が点在する。河川の堤防には, ヨシ原があり, ニセアカシア, ヌルデ, ネムなどの低木が生育し, 一部にはヤダケが群生する。

1993年は暖冬で, オオカラモズの越冬期間中のこの地域の積雪日数 (午前9時の観測時点で積雪のあった日) は16日, 最高積雪深は2月25日の6 cmであった。

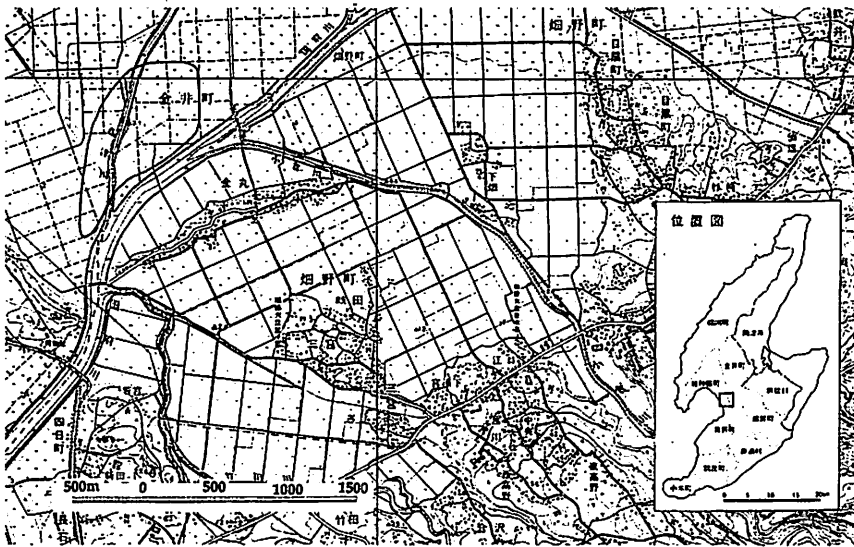


図1. オオカラモズが越冬した地域と行動圏。

Fig. 1. Map of the observation area. Solid thick line: home range.

1993年12月27日受理

1. 〒952-01 新潟県佐渡郡新穂村大字下新穂 107-1

### 生息確認期間および観察方法

1993年1月1日午前9時16分、藤津川が国府川に合流する地点で、右岸堤防上の枯草にとまっている大きなモズ類を発見し、30倍の地上望遠鏡をもちいて詳細に観察した。

筆者は、佐渡島でオオモズ *Lanius excubitor* を5回観察しているが、いずれも春秋の渡りの時期に飛来し、一時的に滞留したもので、脇腹に淡い褐色の波状横斑のある若鳥と考えられる個体であった。

この大型のモズは、オオモズに酷似していたが、オオモズより一回り大きく、尾が長く、翼の白斑は初列風切から次列風切にかけて細長く帯状になり（図2）、飛翔時には翼の中央に幅広い翼帯となっていた。これは、野外でのオオモズとオオカラモズとの識別点（高野 1980）をみたしているため、オオカラモズの成鳥と同定した。

このオオカラモズは、1993年1月1日の初認からこの区域で継続して観察され、1993年3月4日まで確認された。

観察は、越冬区域を見とすことができる藤津川の堤防上から8倍の双眼鏡と30倍の地上望遠鏡をもちいて行なった。総観察日数は22日、総観察時間は52時間であった。

### 観察結果

#### 1. 行動

越冬したオオカラモズの行動圏を図1に示した。行動圏は、オオカラモズを確認した位置を地図に記入し、最も外側の位置を線でむすんだ範囲とした。行動圏の面積は約0.7km<sup>2</sup>で、オオカラモズは水田に立てられた木杭や竹杭をとび移りながら、採食のため行動圏を巡回していた。この行動圏は、チョウゲンボウ *Falco tinnunculus* の雄若鳥の行動圏と重なり、休息のためにとまる杭も共通していた。チョウゲンボウが優位で、オオカラモズがとまっている杭にチョウゲンボウが飛来すると、オオカラモズは争わずにチョウゲンボウを避けて飛び去った。

採食方法は、杭の先にとまり、尾をゆっくりと上下左右に振りながら獲物の出現を待ち、獲物を見



図2. 1993年、佐渡島で越冬したオオカラモズの成鳥（1993年2月16日撮影）。

Fig. 2. An adult Chinese Great Grey Shrike *Lanius sphenocercus* observed in winter of 1993 on Sado Island, Niigata Prefecture.

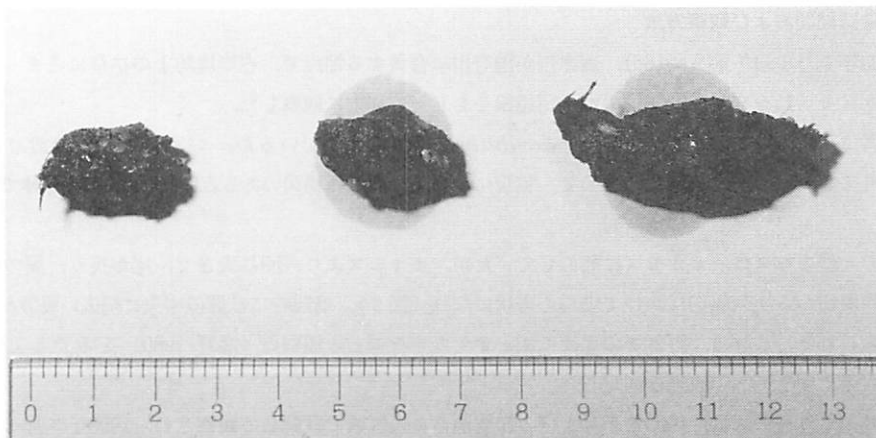


図3. オオカラモズのペリット (左と中央).

右は、同じ場所に落ちていたチョウゲンボウのものと思われるペリット.

Fig. 3. Two pellets of the Chinese Great Grey Shrike (left and center) and a pellet of the Common Kestrel (right).

つけると地上にまいおりて捕獲し、杭にもどって摂食するというものであった。水田の畦や圃場で採食するため、この個体の嘴と足は泥でいつも汚れていた。地上では、ホッピングで移動した。ホッピングによる採食も観察されたが、頻繁には行なわれず、風の強い日に風上にむかって行なうのが観察された。

羽づくろいのときに行なわれた頭かきは、翼越しに行なう間接頭かきであった。

## 2. 食性

オオカラモズの食物として確認できたものは、ケラ *Gryllotalpa africana* であった。これは、目視でも確認できたが、2月16日に竹杭の上でペリットを吐きだしたので、これを採取して分析した。ペリットは長径が2 cm、短径が1 cmほどの円柱状で(図3)、分析した内容物には、ケラ特有のシャベル状の前肢が多量に含まれていた。この個体は、越冬期間中にその食物の多くをケラに依存していたと考えられる。

捕えたケラをその場では食べずに、堤防や休耕田の枯草のやぶに運びこみ、嘴で枯草の茎にはさみこむ貯食行動(はやにえ行動)がしばしば観察された。

## 3. 鳴き声

観察中にオオカラモズの鳴き声を聞いたのは、次の2回だけであった。発見した1月1日に、「ギィー、ギィー」という鳴き声とぐぜりを聞いた。1月11日には、採食地域の竹杭に飛来したコミミズク *Asio flammeus* に対して擬攻撃を行なったが、そのとき威嚇して「キチッ、キチッ」と鋭い警戒声を発した。

## 引用文献

Brazil, M. A. 1991. The Birds of Japan. Christopher Helm, London.

古川弘・常山秀夫・山本明. 1990. オオカラモズの飛来. 日本野鳥の会新潟県支部報 (29): 2-3.

高野伸二. 1980. 野鳥識別ハンドブック. 日本野鳥の会, 東京.

The first record of the Chinese Great Grey Shrike

*Lanius sphenocercus* from Sado Island

Kenichiro Kondo<sup>1</sup>

A single Chinese Great Grey Shrike *Lanius sphenocercus* adult was observed in winter of 1993 on Sado Island, Niigata Prefecture. It fed on the African Mole Cricket *Gryllotalpa africana* in the harvested paddy fields.

1. 107-1 Shimoniibo, Niibo-Mura, Sado-Gun, Niigata 952-01